

報告



第38回 日韓技術士会議報告

技術士（建設部門） 今泉 宜人

1. はじめに

2008年9月28日(日)～30日(火)に、新潟県新潟市朱鷺メッセにあるホテル日航新潟で開催された、第38回日韓技術士会議に参加して参りました。28日は、イベントとして親善サッカー大会が新潟市陸上競技場で開催され、プレイヤーとして参加してきましたのでここに報告いたします。

本会議が開催されたホテル日航新潟は、信濃川が日本海に注ぐウォーターフロントに位置する複合コンベンション施設「朱鷺メッセ」に位置します。



写真-1 会場がある朱鷺メッセ

2. 会議の概要

大会テーマ：「東北アジアの発展のための技術士の役割（物・知・人の交流に向けて）」

(1) 開催スケジュール

9月28日(日)：新潟市陸上競技場

親善サッカー大会 13：00～17：00

ウェルカムパーティー 18：00～20：00

9月29日(月)：ホテル日航新潟

「式典」 9：00～9：40

両国技術士会長式辞

祝辞

「全体会議」 9：50～12：10

両国実行委員長挨拶

両国基調講演

「北東アジア発展のための技術士の役割（物・知・人の交流に向けて）」



写真-2 式典

「分科会」 13：10～17：10

①「環境・資源・Energy」

②「建設と安全・防災」

③「技術と倫理、技術者資格」

④「産業連携における技術士の役割」

⑤「技術士会における青年層の課題」

「友好親善晚餐会」 18：30～20：45

9月30日(火)：研修旅行

佐渡が島他

(2) 参加人数

会議の参加者は地元開催とあって大変多く、日本側が約180名、韓国側が約90名参加していました(名簿より)。北海道支部からは、支部長の大島紀房氏(応理/総合)、会計幹事の市村一志氏(建設)、幹事の丹治和博氏(建設/総合)、永田泰浩氏(建設)、筆者の5名が参加しました。

3. 全体会議

今回のテーマは、「東北アジアの発展のための技術士の役割(物・知・人の交流に向けて)」です。これは、技術士が科学技術の専門家として社会の発展向上に貢献する立場にあり、北東アジアを代表する韓国と日本が強調し、地域開発を実施すべきであることから設定されたようです。

日本側からは三橋郁雄氏(建設)が、韓国側からは朴慶夫氏(建設)が基調講演を行いました。



写真-3 基調講演

4. 分科会

私は、今回の会議において5つの分科会が予定されていましたが、その内第5分科会「技術士会における青年層の課題」に出席しました。そこで技術の継承について発表があったので、ここに報告します。

近年、若手技術者の転職率が高いことで、技術の継承が困難となってきている時代です。それは何に原因があるのか、すべてが「多忙」に由来すると考え、若手技術者のモチベーションの低下に繋がっているという発表がありました。

昔の技術者は、純粋に技術に没頭し、多くの時間

外労働をすることが「美德」と考える風習がありました。しかし、現代の若者にはなじまず、かえって逆風となり、仕事に対するやりがいの低下や責任感の欠如に繋がっていると考えられています。

しかし技術者は、個々に習得した技術を後世に伝え発展させていかなければならないという責務があります。それには、現代の若者に合わせた仕事のさせ方、環境づくりが必要であるとのことでした。

確かに仕事にやりがいを見つけなければ、きつく困難な仕事を全うしていくことはできないと私も考えます。単に技術を伝授するだけではなく、その若年技術者の環境整備も行っていかなければならないと考えさせられました。



写真-4 分科会会場

5. 日韓友好晩餐会

晩餐会は、全体会議が行われた「朱鷺」という会場で行われました。最初に新潟の万代太鼓による演舞から始まり、韓国側の参加者はその迫力に見入っているようでした。その後日韓双方の代表者・来賓者の挨拶・乾杯が行われ、晩餐会が始まりました。

私の席には、韓国からの参加者が6名、日本の参加者が3名の席になっていました。私の隣には、朴在英氏(鉄道信号部門)夫妻が座られていました。奥様が親日家で日本語も流暢なことから、韓国の色々なお話を聞くことができました。

宴会が進むにつれて、新潟芸妓手踊りや、シマチョゴリを来たご婦人の踊りのお披露目により宴も賑やかになっていきました。また最後には、次期開催地の仁川の紹介も行われました。



写真－5 朴 在英氏夫妻



写真－7 韓国の猛攻

6. 親善サッカー大会

親善サッカー大会は、今回で4回の開催になります。今までの勝敗は、日本側の勝ちなしという結果でした。

今回試合が行われた新潟市陸上競技場は、芝生の状態も最高で、参加者は日本側の参加人数が約50名程度？、韓国側は15名程度。試合は、30分ハーフの3試合が行われました。



写真－6 試合開始

第1試合（メイン）は真剣勝負を行う予定で、日本チームは新潟、東京チーム混成のベストメンバーで望む予定でした。しかし第1試合に望む東京チームに「新幹線が止まる」というアクシデントが発生し、試合開始に間に合わず新潟チーム単独で望むこととなりました。韓国チームは、打倒日本のためのベストメンバーで来ているため、試合は終始韓国ペース。

韓国側は全体的にボールへの寄せが早く、ボールを奪ってからはサイドから日本陣営に攻め込み、そ

れを日本の堅い守備が跳ね返すという内容でした。

しかし健闘むなしく前半に1点を韓国側に入れてしまい前半終了となってしまいました。後半は、日本チームの底力を見せ（日本側は後半、メンバーをほとんど入れ替えて体力バッチリ）1点を追加し、1-1の引き分けに終わりました。

第2試合開始後に東京チーム+委員長が合流したので、遅い開会式を行い、引き続き第2試合が行われました。

第2試合では、遅れた東京チーム+混成参加で試合に望みました。第2試合は、韓国チームの人数が少ないこともあり、楽しむサッカーを行うはずが始まってみれば、やはり手が抜けないのでしょうか相手チームは全開状態。試合内容も第1試合同様、韓国ペースで進められてしまいました。韓国チームは、第1試合がウォームアップだったようで、第2試合の結果は2-7と韓国チームの圧勝（サッカーの試合とは思えない点差です（笑））。



写真－8 第2試合風景

私が見ていても本当に韓国チームは体力があり、「俺は55歳だ」と年齢を明かす韓国選手もいました（この人は3試合すべてFWで出ていました）。正直それを聞いたときはもう啞然(驚)。自分は、開始5分で「もう終了」といった体力しかなく、まったく情けない。あとで聞いた話ですが、韓国の技術士会にはサッカーチームがあり、技術はセミプロだそうです。今回参加したメンバーは、そのチームでもやはり年配の方々だったようです（ということは、本国にはさらに強いスペシャルメンバーが居るということですか…(怖)）。

第3試合では、さすがに韓国チームも体力が無くなり（そりゃそうです。15人しか居ないのですから）、それでも結果は1-0とやはり韓国勝利。

終わってみれば、3戦日本の勝ちなしという結果になってしまいました。

私は会社から、「日本の勝利に貢献しろ！」と言われて参加しましたが、貢献どころか足枷となっている状態だったのは言うまでもありません。試合の勝敗、自分の体力無さは、大変残念な結果でしたが、このようなグラウンドで異国の人とサッカーをプレーし、交流できたことに大変満足しました。北海道支部から参加したメンバーも、試合後の表情からその充実感は伝わると思います。



写真-9 北海道メンバー

サッカーで汗を流した後は、大いに親睦を深める場ということで、夕暮れの日本海を望む絶好のロケーションの場に会場を換え、参加者によるウェル

カムパーティーが行われました。最初に勝利チームの表彰等を行い、その後は、飲めや歌えや？の懇親会が始まりました。



写真-10 表彰式

最初は、日本と韓国に別れていましたが、時間とともに、それぞれ名刺交換をするなり、試合の話をする…？なり交流を深めているようでした。やはり、同じスポーツをやる物同士が酒を酌み交わすと、うち解けるのは早いもので大変楽しい時間を過ごすことができました。



写真-11 パーティー会場

7. おわりに

今回、初めて出席した日韓技術士会議でしたが、親善サッカーでは自分の体力の無さをまざまざと感じ、韓国の選手に負けない体力作りが必要なことを痛感させられました。また技術士会議、晩餐会と様々な場所で、韓国の方々と技術交流することができ、大変刺激になりました。また機会があれば是非参加したいと考えます。